蜻蛉(トンボ)の滝

蜻蛉の滝は、切り立った崖から轟音を響かせ流れ落ちる落差 50 メートルの滝で、激流によって磨り減った石の水路に流れ落ちる。晴れた日には、滝から吹き上げる水しぶきが小さな虹を作り出すことがある。

伝説によると、日本の第 21 代天皇である雄略天皇(417 年頃~479 年)がこの滝に名前をつけたという。天皇がこの滝の近くで狩りをしているとき、矢を放とうとした矢先に、アブが天皇の肘に噛みついた。すると、すぐに一匹のトンボがボディガードのように急降下してきて、そのアブを捕まえた。 天皇はたいそう喜び、その一帯を「トンボの野(秋津野)」と名付けた。後に、この名称は滝にも使われるようになった。

蜻蛉の滝は、あきつの小野公園から徒歩 5 分という、川上でもっともアクセスしやすい滝のひとつである。あきつの小野公園には、ピクニックに最適な広々とした芝生広場や、小さな子どもが泳げる浅瀬の小川、桜並木の木陰の遊歩道がある。

短い橋を渡ると、滝へと続く小道の入り口にいくつかの石鳥居が架かっている。滝には 3 つの展望台があり、最も低い展望台は滝の基部、滝つぼの近くにある。中段の展望台から続く小道

を少し歩くと、小さな木造の寺院がある。 その中には、修験道の山岳修行者たちがこの滝を訪れる際に崇拝していた不動明王と蔵王大権現の神像、そして修験道の開祖である役小角(634 年~701 年頃)の像が祀られている。